

# 築150年古民家再生へ

姫路・岸上さん  
市川に所有 京の職人に依頼

(37)に依頼した。岸上さんが美山町を訪れたのをきっかけに、西尾さんとの交流が深まり、古民家の再生につながった。7月には完成する予定だ。(土井秀人)

市川町小畑の山あいにある集落で、築約150年の古民家の改修が進んでいる。所有する姫路市川西台の岸上巖さん(61)が、京都府南丹市美山町のかやぶき職人、西尾晴夫さん

## 先祖とのつながり残したい



屋根を改修する西尾晴夫さん(中央)と、手伝う岸上巖さん(左端) 市川町小畑

古民家は岸上さんの四代前のときに建てられ、木造平屋約百平方呎。六畳四間の座敷があり、日ととなり、雨漏りなどで住

めない状態になっていたという。岸上さんは「集落でも古民家はうちだけになつた。何とか残したい」と

思い、定年を機に改修を考えた。多額の費用が必要と分かり、あきらめかけたとき、インターネット上で西尾さんのことを知り、連絡してみた。

岸上さんは以前から、多くの古民家が残る美山町に旅行に出掛け、かやぶき屋根の改修現場などを写真に収めてきた。その中には偶然、西尾さんを撮った写真もあった。岸上さんの思いを知った西尾さんは快く改修を引き受けた。

改修は昨年十月に始まり、現在、西尾さんらが泊まり込みで作業を続け

ている。六月末には屋根のかき替えが終わり、その後、内装も直すという。岸上さんは「先祖とのつながりを実感できる大切な家。一度はあきらめかけたけど、西尾さんとの出会いで思いがかなった」。西尾さんは「自費を投じて古民家を残そうとする人は珍しく、出会えて良かった。自分の技術を出し切り、完成させたい」と話している。